

よかところ通信

2014年2月号

O2Farm【オーツーファーム】 大津耕太 & 愛梨

〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 587

Tel&Fax : 0967-62-3730

E-mail: mail@o2farm.net

O2FarmWeb : www.o2farm.net



各地で大雪のニュースが流れておりますが、皆さま無事にお過ごしでしょうか。南阿蘇にもたくさん降り、子供たちはさっそくかまくらや雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりしておおはしゃぎ。景色も息をのむほどの美しさでした。

今月最初のニュースは、双子が8歳になったこと。コメ作りとは全く関係ありませんが、お便りなどを通じて、多くの皆さんが息子たちの成長を見守って下さっているので、敢えてご報告させて頂きたいと思います。



ここ数年、双子の誕生日と義祖父の法事を一緒にして、親戚一同の新年会を開いています。後継者がいないことを誰よりも憂いていた祖父。待望の男児、しかも双子が生まれた時の喜びようは、ご想像にお任せします。その祖父がたいした病気ではないのに命を落としてしまったのは、双子が1歳の誕生日を迎えた直後。まだまだ教わりたいことがあったので非常に残念でしたが、跡取りができて安心して他界したことでしょう。双子の誕生日と義父の命日を口実にした新年会は、「盆と正月」の文字通り、とっても盛大。子供たちは廊下を駆け回り、大人は昼から酔っぱらう(笑)映画に出来そうな感じでした。

話は前後しますが、映画と言えば...。「おくりびと」という映画の脚本を手がけた小山薫堂さんと一緒に、熊本市内で開かれたイベントに出ました。薫堂さんと言えば、「おくりびと」もさることながら、ゆるきゃら「くまモン」の生みの親として有名。今回ご一緒させて頂いたのは、【くまもとライフ~日本一「旬」に敏感なくまもと~】というお題のトークイベントでした。熊本県(天草)出身の薫堂さんのプロフィールを見てみると、「放送作家、脚本家、作詞家、大学教授、企画プロデューサー、地域アドバイザー、企業コンサルタントと多彩な顔を持つ」とのこと。多彩にもほどがあるというか...いやはやスゴイです。



トークイベントでは、季節の移り変わりを楽しむ暮らしについて、4人のパネリストがそれぞれの思いや経験を語りました。話はどれも面白かったのですが、「話」ではなく「暮らしそのもの」が季節の移り変わりとは密接なのがO2ファーム。通信に載せているような写真をたくさん見て頂いたところ、薫堂さんもうなるほど、皆さんに喜んで頂きました。当日は「半農半美容師」を目指している青年がヘアメイクをしてくれて、稲穂をあしらった派手な装いで登壇。薫堂さんとお会いしたのは2回目なのですが、本当に気さくで、そして圧倒的な発想力で、聞いている誰をも魅了する素敵な方でした。

1月と2月は「農閑期」。外国人留学生のスタディーツアーを企画したところ、県が始めた「里モンプロジェクト」という農村支援事業に採択されたので、先日それを実施しました。東大&千葉大で勉強している7人の留学生を南阿蘇にご招待。世界農業遺産に認定された阿蘇に滞在し、自然や暮らしを味わってファンになってもらい、将来有望な彼らに世界のあちこちで阿蘇のPRをしてもらおう、というわけです。



参加したのは、シンガポール、台湾、イギリス、オーストラリア、フランス、ポーランドから来た7名。1～2名ずつ4軒に分かれてご近所のお宅に泊めてもらいました。翌日は農作業の体験をし、晩には公民館で意見交換会。受け入れてくれたご家族の皆さんや地元住民が参加しました。「アグリツーリズムによって、農家が単なる生産者から、地元の魅力を伝える役目を果たすようになった故郷（オーストラリア）を思い出した」とか、「農村と都市はもともと支えあう関係だった。日本に限らず、現代社会では分離され過ぎているので、また繋がりを取り戻したい」とか、「農村は再生可能なエネルギー資源の宝庫。ここでもっと利用が増えれば、世界中から人が来るはず」などなど、私たちが普段から思っていることを彼らの言葉で見事に表してくれて、主催者としてはニヤニヤしっぱなしでした。テレビ局や新聞社の取材も相次ぎ、「こういう取り組みは、ぜひ増やしたり続けたりして欲しい」との反応が多方面から出ました。補助事業としては1年で終わりなのですが、今回の大成功をきっかけに、なんとか継続できる方法を考えていきたいと思います。

留学生と入れ違いに、ドイツ留学時代の友人一家が遊びに来ました。6週間の休暇を日本で過ごします。これは、ドイツ人にしては珍しく長い方ではありますが、遠くに行くからには一ヶ月以上滞在する人は珍しくありません。旦那さんの仕事は庭師。冬場は仕事が少ないので、育児手当制度をうまく利用して、子供が就学する前に遊びに来てくれたのです。手当をもらいながら、育児休暇を外国で過ごしているというわけです。日本人の感覚では、とても信じられないですね。ゆっくりと滞在しながら、異国の文化を楽しんでいます。



もう一つ、大きな出来事がありました。震災・原発事故以来、初めて福島に行ってきたのです。再生可能なエネルギーを市民の手で広げよう、という主旨の国際会議に出席したのですが、合間に被災地視察（南相馬と飯館村）や、地元中学生との交流があり、充実していました。O2ファームでは昨年、皆様のご支援を受けて被災地の子供たちを招待する取り組みを始めていますが、今年は、再生可能なエネルギーについてももっと知りたい！と燃えている中学生たちを招待できればと思います。国際会議では「10年来、農家が食べ物もエネルギーもつくれる社会を目指して活動しています」という私の発言がきっかけとなり、国際的なキャンペーンにも参加させて頂くことに。詳しくは来月の通信でも報告したいと思います。誰も耕すことのできない農地に雪が降り、キツネが悠々と歩いていた姿を、私は決して忘れません。被害を受けられた多くの方々のためにも、原発に代わるエネルギーを農家が作れるような社会を1日も早く現実のものにしたいです。



さあ、3月に入ると、今シーズンのお米作りに向けて始動開始。いきなりハードな作業から始まるので、腰や肩を痛めないように気をつけます。どうぞ皆さまも、お元気で。